



Towards a resilient, inclusive, and prosperous Africa

TICAD8に向けた JICAのアフリカ協力

2022年7月20日
国際協力機構（JICA）
アフリカ部計画・TICAD推進課
徳田真人

目 次

- 1.アフリカの重要性**
- 2.TICADとは**
- 3.今のアフリカを取り巻く環境**
- 4.TICAD8について**
- 5.TICAD8に向けたJICAの取り組み**

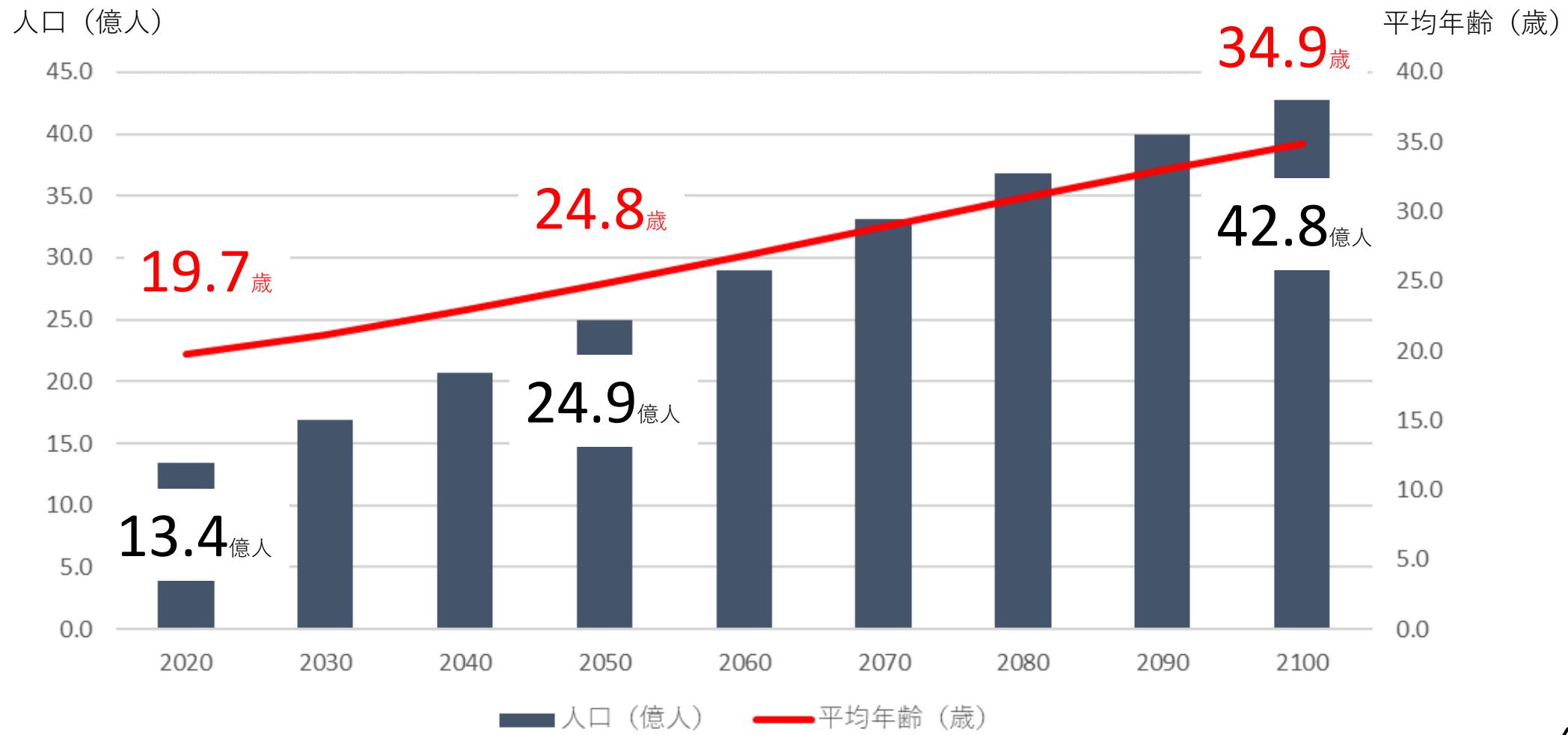


Towards a resilient, inclusive, and prosperous Africa

1. アフリカの重要性

1-1. アフリカのポテンシャル・人口

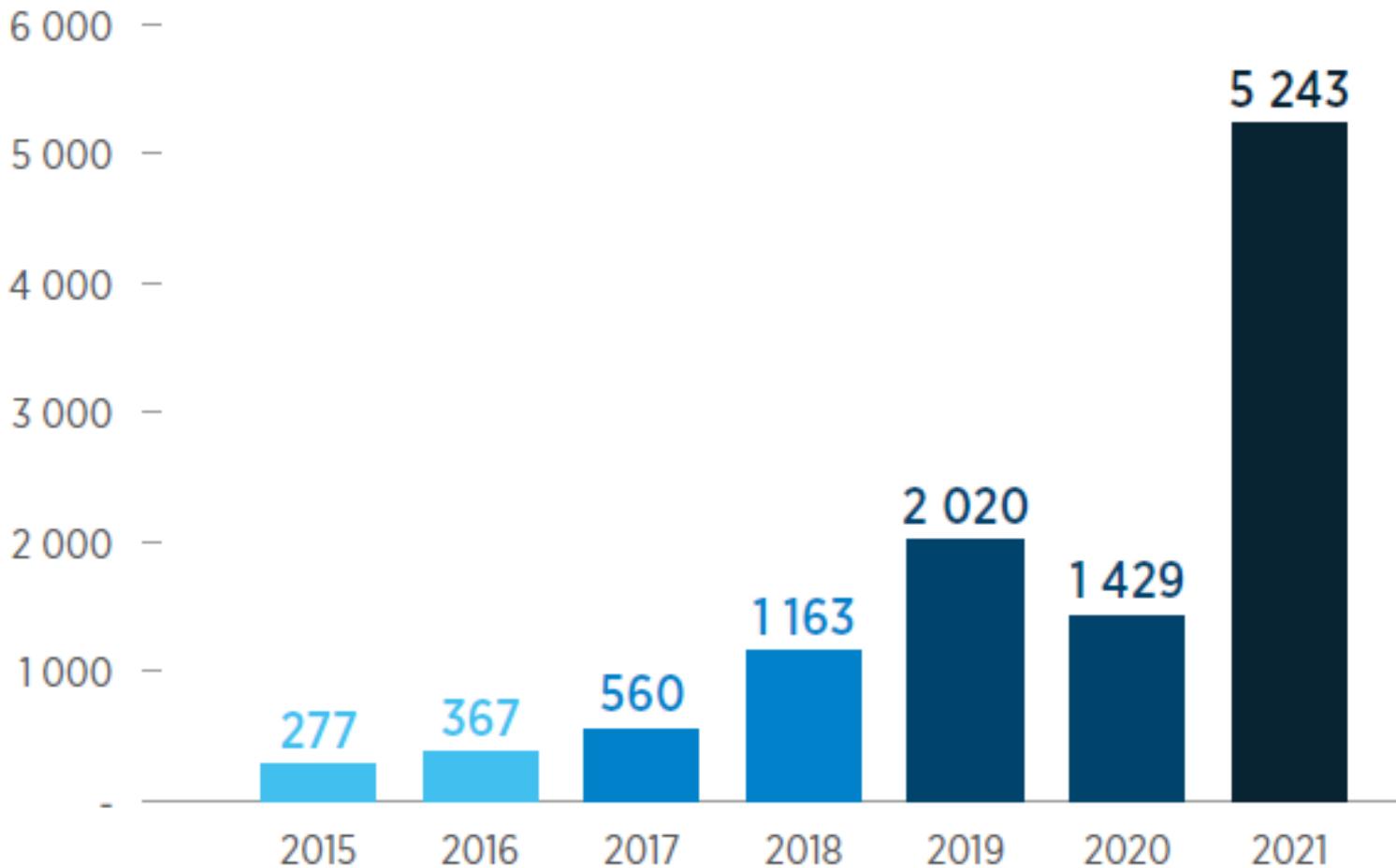
アフリカの人口及び平均年齢



出典：国連（2019）World Population Prospectsに基づき、JICAアフリカ部にて作成

1-2. アフリカにおけるDXの進展

アフリカ発スタートアップへの投資金額の推移（百万ドル）

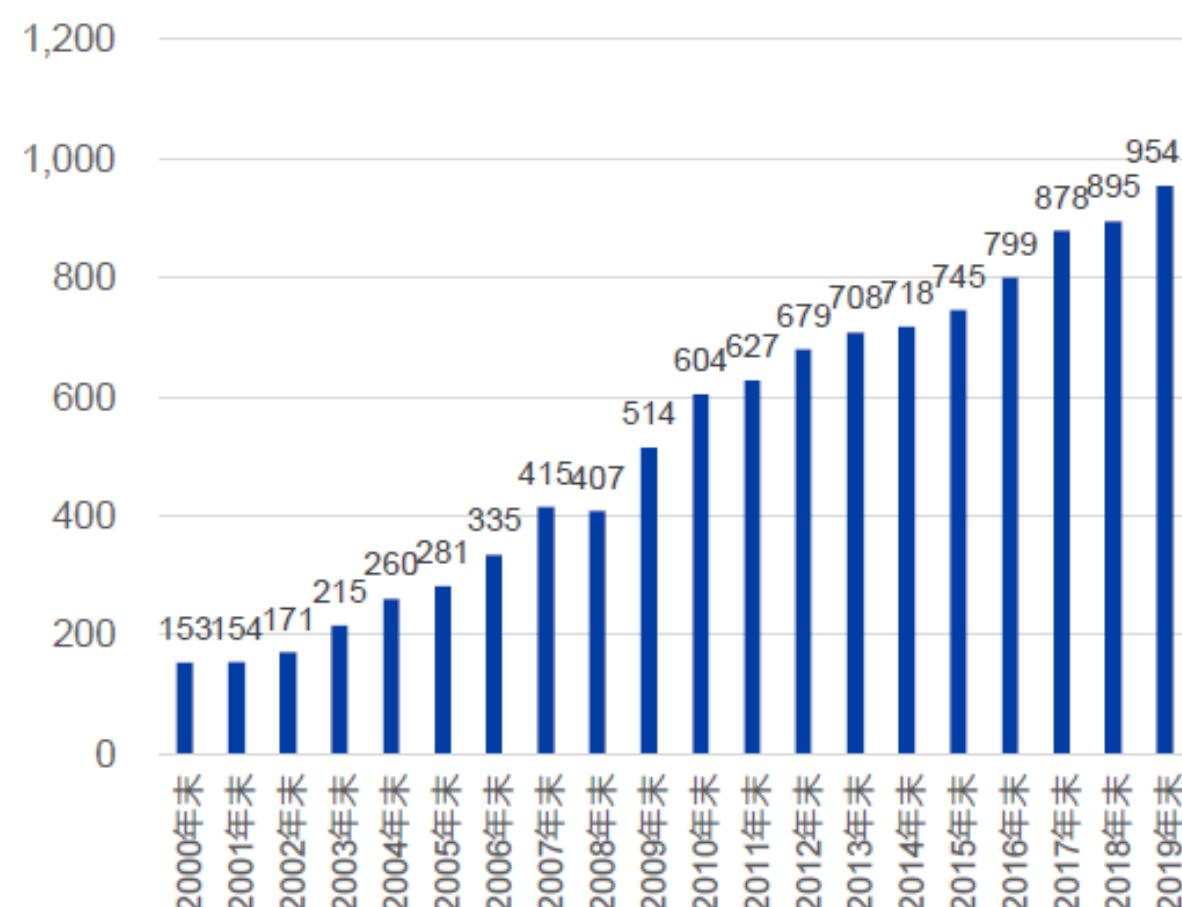


アフリカへのスタートアップ投資は、コロナ下でも急激に拡大中

出典： Partech (2022)

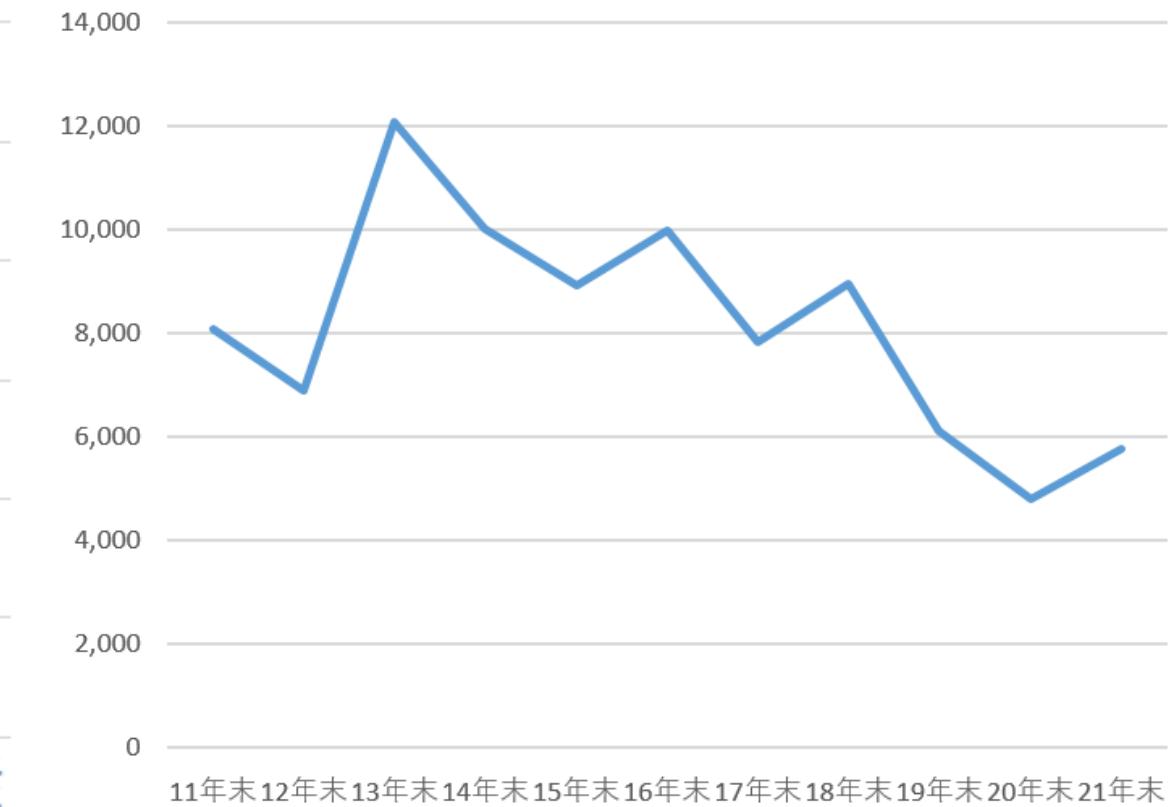
1-3. アフリカのポテンシャル・FDI

(10億ドル) アフリカ向け外国直接投資残高



出所：UNCTAD

(100万ドル) 日本からアフリカへの対外直接投資残高



出典：JETRO (2021)

出典：JETRO直接投資統計（2022年6月21日
閲覧）を基にJICAアフリカ部にて作成

1-4. 国際社会の安定と繁栄の重要地域

自由で開かれたインド太平洋

国際社会の安定と繁栄の鍵を握るのは、
 「2つの大陸」：成長著しい「アジア」と潜在力溢れる「アフリカ」
 「2つの大洋」：自由で開かれた「太平洋」と「インド洋」
 の交わりにより生まれるダイナミズム
 ⇒ これらを一体として捉えることで、新たな日本外交の地平を切り拓く

アフリカ

- 高い潜在性
 - ・人口約13億人（世界の17%）
→2050年には25億人との予測
 - ・面積3000万km²（世界の22%）
 - ・高い経済成長率（2000~16年の平均は4.8%）
 - ・豊富な資源と有望な市場
- ⇒「成長大陸」として飛躍する中、
貧困・テロ等の課題あり

アフリカ諸国に対し、開発面に加えて政治面・ガバナンス面でも、押しつけや介入ではなく、オーナーシップを尊重した国造り支援を行う

- ◆ インド太平洋地域は、海賊、テロ、大量破壊兵器の拡散、自然災害、現状変更等の様々な脅威に直面。このような状況下において、日本は、法の支配を含むルールに基づく国際秩序の確保、航行の自由、紛争の平和的解決、自由貿易の推進を通じて、インド太平洋を「国際公共財」として自由で開かれたものとすることで、この地域における平和、安定、繁栄の促進を目指す。



アジア

- 東南アジア及び南アジアでは民主主義・法の支配・市場経済が根付き、自信・責任・リーダーシップの自覚めあり
 ⇒ 今や「世界の主役」たるアジアの成功を、自由で開かれたインド太平洋を通じてアフリカに広げ、その潜在力を引き出す

ASEAN地域の連結性を向上させることで、質の高いインフラ整備、貿易・投資の促進、ビジネス環境整備、人材育成強化を図る。ASEANの成功を、中東・アフリカ等の地域に広げる

1-5. 国際世論形成の大票田

国連加盟国の4分の1以上を占める国数

**日本商工会議所**
The Japan Chamber of Commerce and Industry

[» English](#)

検索

[政策提言活動](#) [中小企業関連情報](#) [会員向け事業](#) [地域振興情報](#) [調査・研究](#) [国際関連情報](#) [IT関連情報](#) [日商について](#)

[トップページ](#) > [ニュースライン](#) > [トレンドボックス](#) > TICAD 7 公式サイドイベント「2025年大阪・関西万博を通じたアフリカへの貢献」を開催（日本国際博覧会協会）

[ニュースライン](#)

[日商ニュース](#)

[地域最前線](#)

[トレンドボックス](#)

[会議所ニュース](#)

[石垣](#)



日商 ASSIST Biz
中小企業と地域の“商売繁盛”を応援

トレンドボックス



TICAD 7 公式サイドイベント「2025年大阪・関西万博を通じたアフリカへの貢献」を開催（日本国際博覧会協会）

2019年8月13日 14:59

一般社団法人日本国際博覧会協会は、8月28~30日に横浜で開催されるTICAD 7（第7回アフリカ開発会議）の公式サイドイベントとして、「2025年大阪・関西万博を通じたアフリカへの貢献」を、8月28日にパシフィコ横浜で開催する（PRブースは27~30日の間設置）。

本イベントは、2025年に開催される大阪・関西万博の意義等をアフリカ政府関係者や来場者にトークセッションやPRブースを通じて伝えるもの。

出典：日本商工会議所HP

<https://www.jcci.or.jp/news/trend-box/2019/0813145941.html>



Towards a resilient, inclusive, and prosperous Africa

2. TICADとは

2-1. TICADとは

- **TICAD : Tokyo International Conference on African Development**
(アフリカ開発会議)
- アフリカの開発をテーマとする国際会議
- 1993年以降、日本政府が主導し、国連、国連開発計画（UNDP）、世界銀行及びアフリカ連合委員会（AUC）と共同で開催
- アフリカ開発に関するフォーラムに関する先駆者
- 「バイ」と「マルチ」の両面
- 2つの理念：アフリカ諸国の「オーナーシップ」と、国際社会による「パートナーシップ」の重要性

2-2. TICADの歴史

1993年 TICAD I (開催地:東京)

アフリカ開発にアジアの経験を生かすことを公約した「アフリカ開発に関する東京宣言」を採択。国際社会のアフリカへの関心を呼び戻す会議に。

1998年 TICAD II (開催地:東京)

アフリカ諸国の「自助努力(オーナーシップ)」と、国際社会による開発パートナーとの「パートナーシップ」の重要性を提唱。「東京行動計画」を採択。

2003年 TICAD III (開催地:東京)

TICAD発足10周年。アフリカ連合(AU: African Union)が2001年に立ち上げた「アフリカ開発のための新パートナーシップ(NEPAD: New Partnership for Africa's Development)」への支援で合意。

2008年 TICAD IV (開催地:横浜)

「元気なアフリカを目指して—希望と機会の大陸」のテーマの下、対アフリカODA倍増などの取り組みを示す「横浜宣言」「横浜行動計画」を採択。

2013年 TICAD V (開催地:横浜)

民間セクター主導の成長、アフリカへの投資の重要性が確認され、5年間で最大3.2兆円の官民の取り組みをアフリカで行うと表明。

2016年 TICAD VI (開催地:ケニア・ナイロビ)

初めてアフリカで開催し、以降は3年ごとの開催に。インフラ整備や強靭な保健システムの促進、平和と安定の基盤づくりなど「未来への投資」を表明。

2019年 TICAD7 (開催地:横浜)

イノベーションを通じたビジネス環境の改善、持続可能で強靭な社会の深化、平和と安定の強化を日本のアフリカ協力の3つの柱に。

2022年 TICAD8 (開催地:チュニジア・チュニス)

2022年3月にオンライン開催された閣僚会合では、経済、社会、平和と安定の3つの柱に基づいて、アフリカ開発における優先課題を議論。

3. 今のアフリカを取り巻く環境 - TICAD8の背景 -

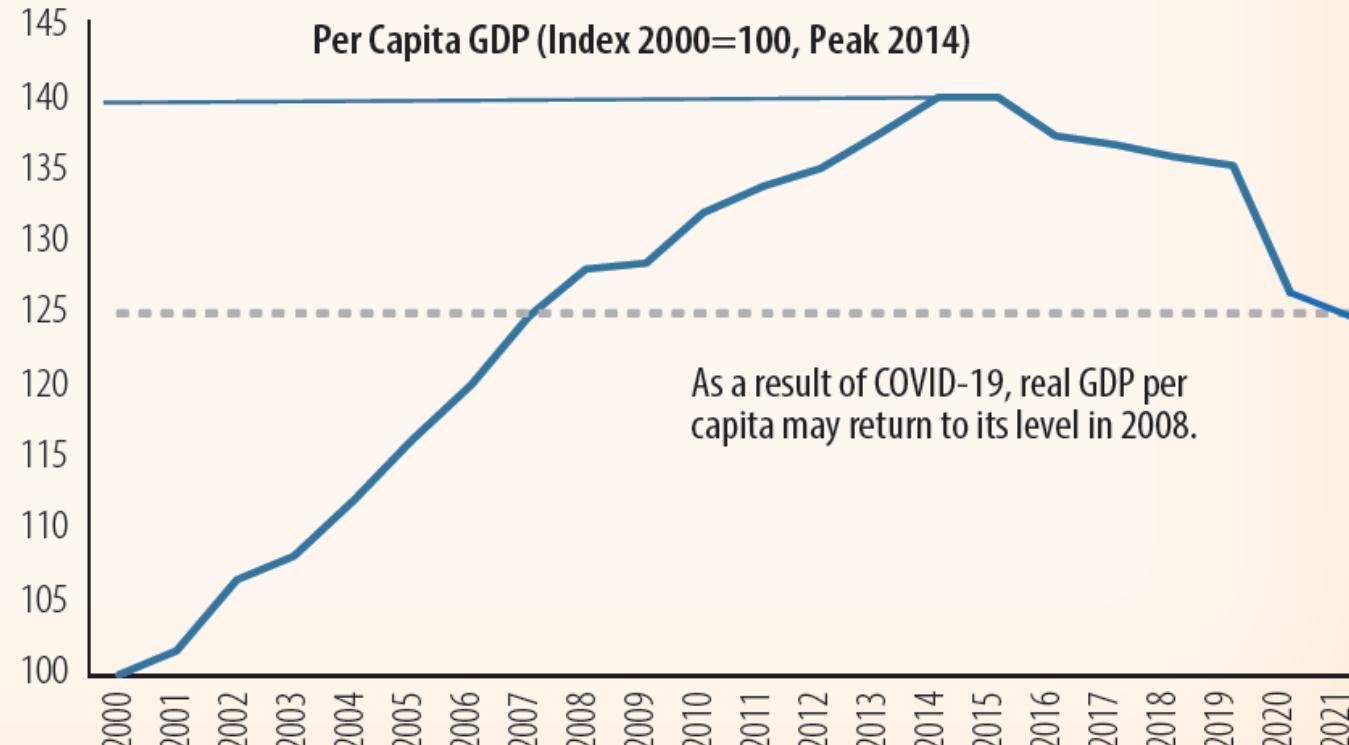
- 初のマイナス経済成長、1人当たりGDPは10年前の水準へ逆戻り
- ロックダウン等による教育機会、労働機会の逸失が大きく、貧困人口率も増加傾向に反転
- 対外債務の大幅拡大(2021-25年で約40兆円) *IMF
- 食糧安全保障の危機：露・ウクライナへの高い穀物依存

→2030年までのSDGsの達成が厳しい状況

(参考) サブサハラの一人当たりGDP (2000~2021年)

The slow recovery projected in 2021 implies that at the end of 2021, the region's real GDP per capita would be back to its level in 2008.

FIGURE 1.52: Real GDP per Capita, 2000–21

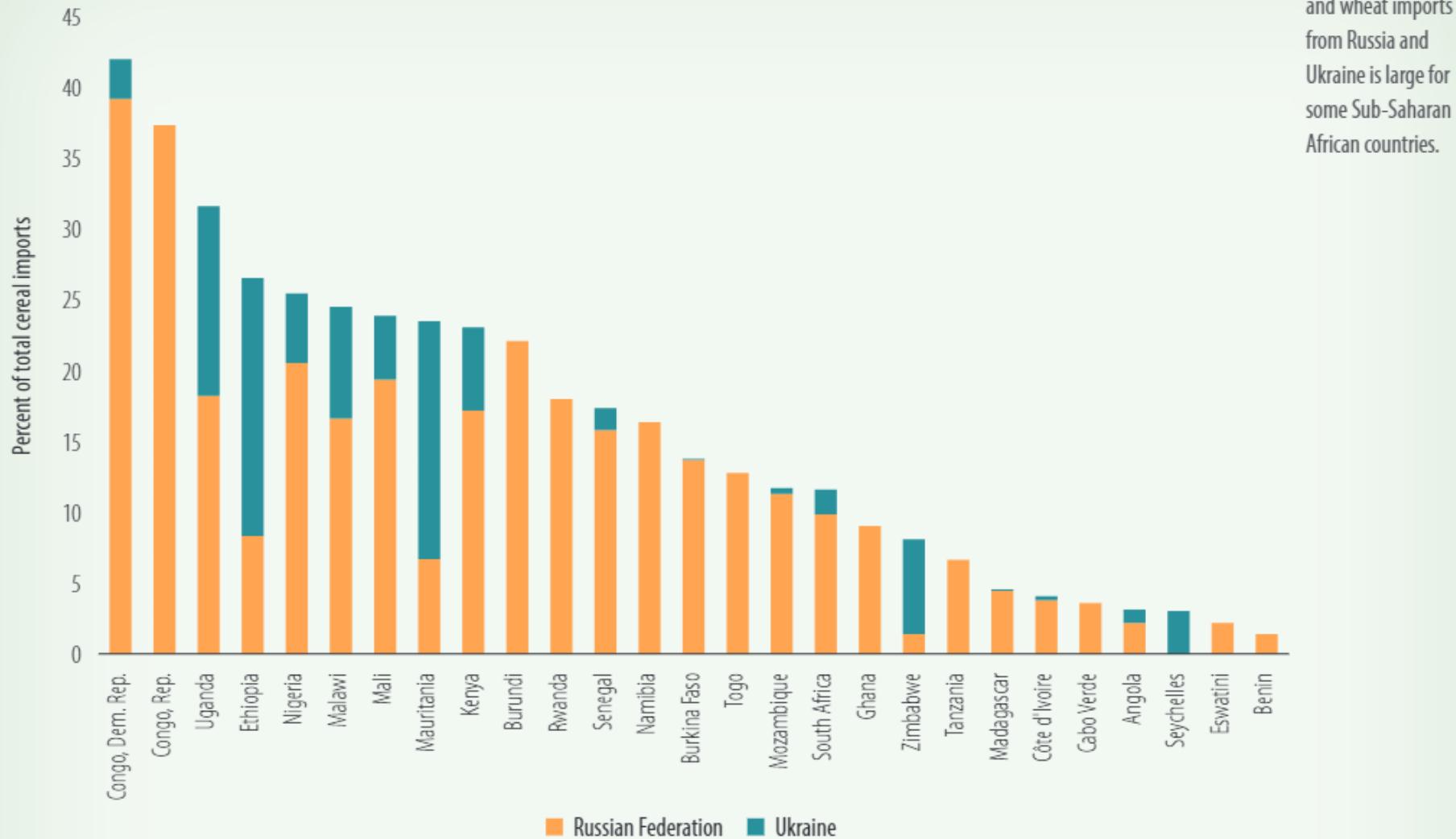


Source: World Bank.

サブサハラの一人当たりGDPは、2000年以降持続的に増加したが、2014年以降は減少傾向に転じていた。2020年のマイナス成長によりさらに大幅に落ち込み、2021年には2008年の水準に逆戻りする見込み。出典：World Bank Africa's Pulse Oct-2020

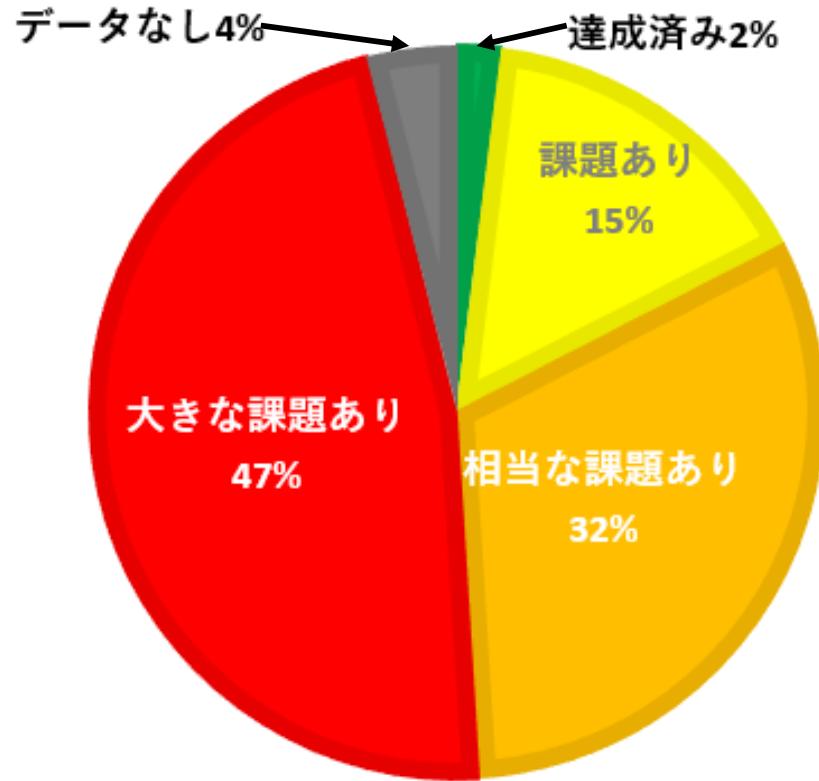
(参考) 食糧安全保障への影響

FIGURE 1.12: Import Dependence on the Russian Federation and Ukraine in Cereals (% of total cereal imports)

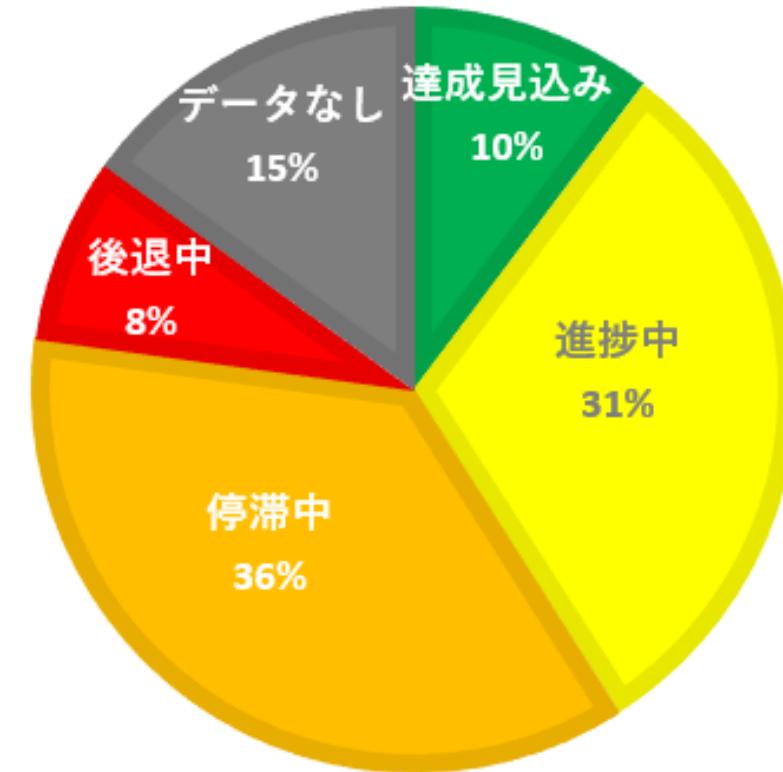


サブサハラは、穀物輸入全体の15.3%をロシア・ウクライナ両国に依存。
出典：World Bank (2022), Africa's Pulse April-2022

2019年時点の達成状況



2030年に向けた進捗見込み



2019年時点でのアフリカ54カ国×SDGs17目標=918項目の進捗度と達成見込みを集計。達成済みの項目はわずか2%、達成見込みは10%に過ぎず、アフリカでのSDGs達成のために大幅な加速化が必要。

3-2. 主要国による対アフリカ支援表明

	会合	時期	表明・金額	内容
日本	TICAD7	2019年7月	「TICAD7における日本の取組」、3年間で200億ドルを超える民間投資の拡大	アフリカビジネス協議会設置、スタートアップ支援、JBIC金融支援（3年間で45億ドル）、EPSA4（3年間で35億ドル）
	TICAD8	2022年8月	(TICAD閣僚会合（2022年3月）における林外務大臣開会挨拶)	社会課題解決型ビジネス支援、「グリーン」関連ビジネスの拡大、自由で開かれたルールに基づく国際経済システムの強化、他
中国	FOCAC 8	2021年11月	3年間で右記の金融支援（計400億ドル）、10億回分のワクチン供与、他	100億ドルの輸入支援金融、100億ドルの投資促進、100億ドルの金融支援、IMF/SDRの100億ドル融通他
EU	EU-AU Summit	2022年2月	「Africa-Europe Investment Package」、7年間で1500億ユーロ	インフラ投資、エネルギー転換、グリーン転換、DX、4.5億回分のワクチン供与、ワクチン製造拠点設置支援他
米国	US-Africa Leaders Summit	2014年8月、2022年内（予定）	「Power Africa」、アフリカ電力整備イニシアティブ（2013年夏オバマ大統領アフリカ歴訪時に表明）	米国の官民及びパートナー国（日本を含む）との連携・協調により、6000万世帯の電化、3万メガワットの発電能力強化
			「Prosper Africa」、アフリカ向け貿易投資促進への包括的支援策（2018年12月のボルトン大統領補佐官スピーチにて表明）	米国政府関係省庁の横断的支援により、45カ国で800件の成約、500億ドル相当の輸出投資案件を実現
			「Build Back Better World (B3W) Partnership」。G7各国による数千億ドルの途上国向けインフラ投資（2021年6月G7サミットにてバイデン大統領より呼びかけ）	B3Wの一環として、EUが2021年11月、7年間で3000億ユーロの「Global Gateway」を発表済み（うち半分が上記アフリカ向け）。米国自身による取組は未発表



Towards a resilient, inclusive, and prosperous Africa

4. TICAD 8 について

4-1. TICAD8の概要

- **日時等**：本年8月27日（土曜日）及び28日（日曜日）にチュニジアで開催予定
- **開催方式**：「新型コロナウイルスの感染状況等を見極めながら、今後調整予定」（2022年2月8日内閣官房長官記者会見）
- アフリカがコロナ禍・ウクライナ危機から脱却し、持続可能な発展に向けた歩みを進める上で極めて重要な機会
- **公式サイドイベント**：8月1日（月曜日）から9月30日（金曜日）までの間、完全オンライン形式
- **ロゴマーク**：7月15日に正式発表



TICAD 8 概要

https://www.mofa.go.jp/mofaj/afr/af2/page24_001517.html

アフリカ開発会議 (TICAD)

第8回アフリカ開発会議 (TICAD8) (チュニジア開催)

令和4年7月15日

[英語版 \(English\)](#)

 ツイート

 シェアする

 メール

TICADとは、Tokyo International Conference on African Development (アフリカ開発会議) の略であり、アフリカの開発をテーマとする国際会議です。1993年以降、日本政府が主導し、国連、国連開発計画 (UNDP) 、世界銀行及びアフリカ連合委員会 (AUC) と共同で開催しています。

2020年7月、日本政府は2022年に予定されている第8回アフリカ開発会議 (TICAD8) をチュニジアで開催することを発表しました。アフリカでの開催は、2016年にケニアで開催されて以来、2回目となります。日本としては、2019年8月に横浜で開催されたTICAD7の成果を踏まえ、TICAD8に向け、アフリカ自身が主導する発展を引き続き力強く後押ししていく考えです。

関連情報

- ▶ [第8回アフリカ開発会議 \(TICAD 8\) のパートナー事業一覧 \(令和4年7月15日\)](#)
- ▶ [第8回アフリカ開発会議 \(TICAD 8\) の公式サイドイベントの募集 \(令和4年7月7日\)](#)
- ▶ [第8回アフリカ開発会議 \(TICAD8\) のロゴマークの使用及びパートナー事業認 \(令和4年7月7日\)](#)
- ▶ [第8回アフリカ開発会議 \(TICAD8\) の開催日程 \(令和4年2月8日\)](#)
- ▶ [TICAD8のチュニジア開催 \(令和2年7月16日\)](#)

TICAD閣僚会合（3/26-27）結果概要

https://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press1_000805.html

報道発表

アフリカ開発会議(TICAD)閣僚会合（結果概要）

令和4年3月28日
[英語版 \(English\)](#)

 ツイート

 シェアする 6

 メール



3月26日午後8時（日本時間）から約2時間半、及び27日午後8時（日本時間）から約2時間半、テレビ会議形式にて、アフリカ開発会議(TICAD)閣僚会合が開催され、林芳正外務大臣が議長を、鈴木貴子外務副大臣が議長代理を務めました。

会合の結果、議長サマリーを発出しました。

また、林大臣は、この機会にアフリカの7か国外相等と二国間会談を行いました。



Towards a resilient, inclusive, and prosperous Africa

4. TICAD8に向けたJICAの取り組み

4-1. 複合的危機におけるアフリカ協力

TICAD8に向けた「JICAのアプローチ」



4-2. 協力事例：保健医療(1)

アフリカの医学研究所の能力強化、域内ネットワークの構築

ガーナ野口記念医学研究所 (NMIMR)への協力



- ・約50年間の支援。技術協力8件、無償資金協力4件、共同研究2件などを実施。
- ・コロナ禍ではPCR検査数のうち、ピーク時で8割が野口研で検査。

ケニア医学研究所 (KEMRI)への協力

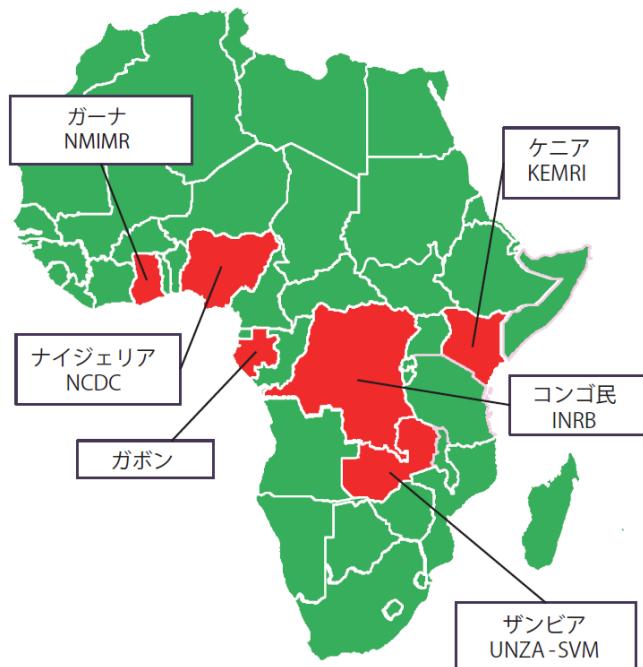
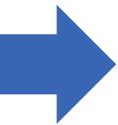


- ・約40年間の支援。技術協力5件、無償資金協力3件、共同研究2件などを実施。
- ・コロナ禍ではPCR検査数のうち、ピーク時で5割がKEMRIで検査。

【感染症拠点のネットワーク構築】

■ 3つの柱

- 1. 感染症対策拠点ラボの機能強化**
- 2. 感染症対策人材の育成**
- 3. 地域・国際イニシアティブへの貢献**
* アフリカCDCとの連携



4-3. 協力事例：保健医療(2)

新たな取組み：民間資金の動員（協調融資）によるCOVID-19支援

アフリカ輸出入銀行への融資を通じてアフリカにおけるCOVID-19対応を支援

事業概要

地域開発金融機関であるアフリカ輸出入銀行（Afrexim）を通じ、アフリカのワクチン製造ラインを含む医療品・医薬品の域内製造・供給拠点の整備、病院等保健医療関連施設の整備を行い、アフリカの保健医療体制を強化し、COVID-19からの円滑な社会経済活動の回復を支援するもの。

本事業のポイント

1. ワクチン生産能力強化

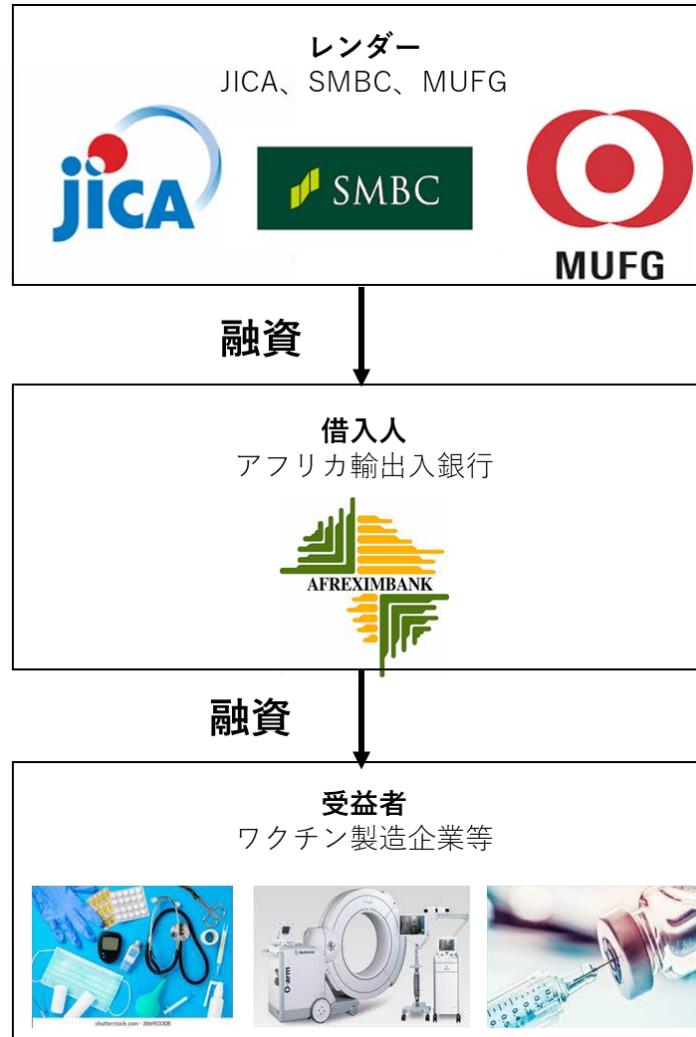
サブプロジェクトには、アフリカにおけるCOVID-19ワクチンを含むワクチン全般の生産能力強化が含まれる予定。あらゆるワクチンの99%を輸入に頼るアフリカが、域内でワクチンを生産できるようになるよう支援を行う。

2. Afreximを通じた支援

Afreximにはアフリカ51カ国の政府が加盟しており、Afreximを通じて幅広い国々への支援が可能。

3. 民間資金動員

アフリカの医療品・医薬品の製造能力強化、病院等の保健医療関連施設の整備等の設備投資には長期的な融資が必要。商業銀行のみではコロナ禍の影響もありアフリカ地域への長期的な融資が難しいところ、本案件のようなJICAの長期的な融資を供与することで本邦金融機関の協調融資を動員。



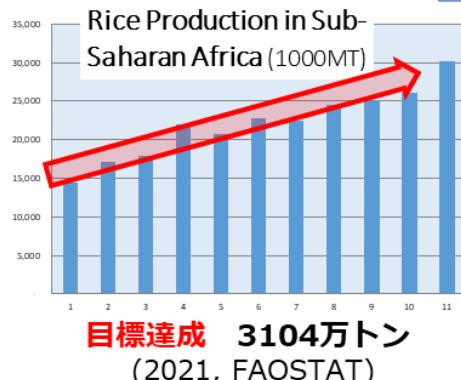
4-4. 協力事例：農業

アフリカ稲作振興のための共同体（CARD）

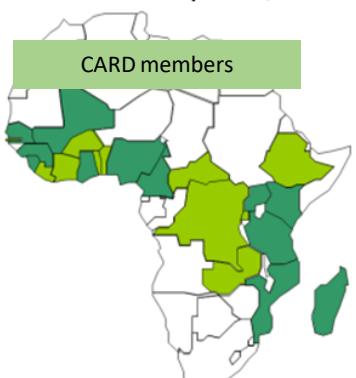
TICAD IV

CARDフェーズ1（2008-2018年）

- 対象：23か国・11運営機関による国際イニシアチブ
- 目標：2018年までにアフリカのコメ生産量倍増（1400万トン → 2800万トン）
- 成果：3104万トン（2018年）、200件超のCARD関連案件



【第1グループ】
カメルーン
ガーナ
ギニア
ケニア
マリ
モザンビーク
ナイジリア
セネガル
シェラレオネ
タンザニア
ウガンダ
マダガスカル



【第2グループ】
ガンビア
リベリア
コートジボワール
ブルキナファソ
トーゴ
ベナン
中央アフリカ
コンゴ民主共和国
ルワンダ
エチオピア
ザンビア

TICAD 7

CARDフェーズ2（2019-2030年）

- 目標：さらなるコメ生産量の倍増（2800万トン → 5600万トン）
- 「RICEアプローチ」：倍増達成への道筋重視
- 対象国：32か国（従来の23か国に9か国を追加）
アンゴラ、マラウイ、スーダン、ブルンジ、チャド、ガボン、ギニアビサウ、ニジェール、コンゴ共和国

Resilience

- 気候変動に対応した灌漑開発
- 気候変動耐性品種の育種と普及



Industrialization

- コメ・ビジネスの促進支援、バリューチェーン構築支援
- 国内・域内コメ流通促進（インフラ、政策）
- 農業機械化促進
- 肥料、種子等の農業投入材



Competitiveness

- 優良種子の普及
- 収穫後処理技術の向上（精米品質）



Empowerment

- 農家の生計向上・生活向上（裏作、栄養改善）
- 金融アクセス向上への支援



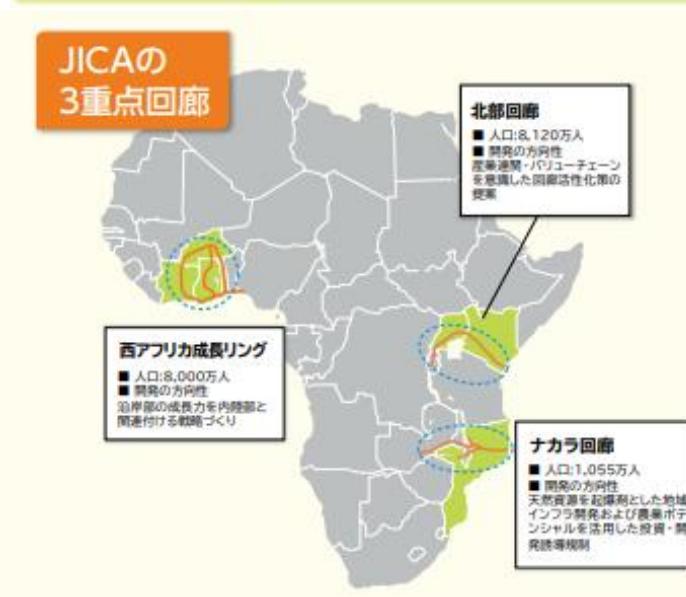
4-5. 協力事例：連結性強化・地域経済統合

回廊開発

▶JICAの回廊開発アプローチ

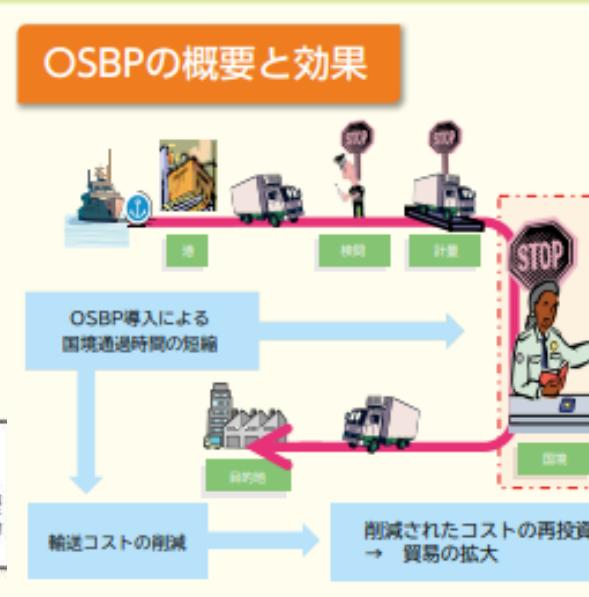
有償資金協力	施設整備／ハードインフラ	整備計画	産業開発	社会セクター開発
			×	×
無償資金協力	● 港湾、道路、橋梁、鉄道などの整備（無償・有償） ● 電力開発・送変電整備（無償・有償） ● ワンストップ・ボーダーポスト（OSBP） 施設整備（無償・有償） ● 経済特区（SEZ）整備（無償・有償）	● 越境手続円滑化制度構築（技術協力） ● インフラ運営管理の能力強化（技術協力） ● 民間投資促進のための資金協力（有償）	JICAは、物流・貿易を円滑にするOSBPへの支援などを通じて、貿易・投資を促進するとともに、民間企業向けの有償資金協力を活用することで、民間セクターの投資を促進し、成長の原動力の強化を図ります。	● 鉱業 ● 農業 ● 観光 ● 技術教育 ● 保健 ● 公衆衛生 ● 教育 ● 給水
技術協力	開発途上国の中長期的な自律的成長を支えるため、JICAは経済成長の基盤強化に重点を置きつつ、輸送、電力・エネルギー・通信など施設整備を支援しています。			
民間連携事業				

JICAの3重点回廊



- 北部回廊**
 - 人口: 8,120万人
 - 開発の方向性: 路線選定・パリューチェーンを意識した回廊活性化策の実施
- 西アフリカ成長リング**
 - 人口: 8,000万人
 - 開発の方向性: 沿岸部の成長力を内陸部と連携付ける戦略づくり
- ナカラ回廊**
 - 人口: 1,055万人
 - 開発の方向性: 天然資源を起爆剤とした地域インフラ開発および農業生テクノロジアルを活用した投資・開発誘導規制

OSBPの概要と効果



The diagram shows a comparison between a traditional border crossing process and an OSBP-enabled process. In the traditional process, a truck crosses a border with a 'STOP' sign, leading to a delay at customs ('検査') and a long border crossing time ('検査'). In the OSBP-enabled process, the truck is cleared by customs ('検査') before reaching the border, resulting in a significantly shorter border crossing time ('検査'). This leads to a reduction in transport costs ('輸送コストの削減') and a reduction in costs being reinvested in trade ('削減されたコストの再投資 → 貿易の拡大').



モンバサ港開発および周辺道路開発事業（ケニア）
[写真：東洋建設株式会社]



テーマ立体交差点（ガーナ国際回廊改善計画7
の一部）（ガーナ）

4-6. 協力事例：起業家支援

Project NINJA (Next Innovation with JAPAN)

開発途上国の起業家を支援し、社会課題解決、新産業創出、日本企業連携を推進

■取り組み事例

アフリカ地域COVID-19対応ビジコン

- ✓ アフリカ19カ国で募集、2,713社より提案。
- ✓ 医療、物流、農業等多様な起業家が参加
- ✓ 日本経済新聞社共催で優秀企業10社（下記）による決勝戦を実施（2021年2月26日）。ウェビナーに2000名以上が登録



JAPAN × AFRICA
Join us on 26 Feb
Online Pitch Event
Organized by Nikkei and JICA



✓ 最優秀企業：

ウガンダ Mobile Scan Solutions (M-Scan) 社
妊産婦向けポータブル超音波装置を開発。同装置を活用した妊産婦訪問診療サービス。



✓ 日本企業8社から特別賞授与 豊田通商株式会社

Moja Ride社（コートジボワール）に新株予約権付転換社債の引き受けによる出資
楽天株式会社

TranSoniCa社（ガーナ）にメンタリングの機会を提供
同社CEOはABEイニシアティブ卒業生

他6社より資金・メンタリング・事業連携等提供

4-7. 協力事例：産業人材育成／親日派育成

ABEイニシアティブ

目的

- アフリカの成長の糧となる産業人材の育成
- 日本企業のアフリカビジネス「水先案内人」の育成とネットワークの構築

アプローチ

- 日本政府と産業界の共同プログラムとして修士号の取得と企業でのインターンを実施
- 長期留学により日本社会や企業文化などに理解を持ち日本らしい実践的なビジネスのノウハウを持つ人材を育成

これまでの実績

1,500名

これまでの受入人数
(14-21年度、概数)

120名

日本企業等への就職者
(2021年4月時点、概数)

80大学

国内の協力大学
(2021年度まで、概数)

400企業

インターン協力企業
(20年4月時点、概数)

事例：ルワンダ進出への水先案内人として貢献



- 避雷器メーカーである音羽電機工業は、ABEイニシアティブ生ムガルラ氏のインターン受け入れをきっかけにルワンダでの落雷被害を解決するための自社製品の普及を開始。
- 同氏は、現地コンサルタントとして、音羽電機工業及びルワンダ公共規制局(RURA)と連携し、国内インフラ等の雷対策の普及・実証・ビジネス化事業に貢献



ムガルラ氏

■JICA TICAD特設サイト <https://www.jica.go.jp/TICAD/ja/index.html>

Towards a resilient, inclusive, and prosperous Africa

English
Français

Google 提供

イベント

ホーム 概要▽ 取り組み▽ 国情報▽ イベント▽ TICAD▽

Towards a resilient, inclusive, and prosperous continent:
Africa –JICA collaboration to build forward better

イベント

イベント告知



2022年7月16日
激変する世界の中で人間の安全保障をアフリカから考えてみよう (外部サイト)



2022年7月15日
AFRI-CONVERSE 2022 #03 「Special Edition: Going Green with Business in the Era of Climate Change in Africa - Sharing Experience from Tunisia leading to TICAD8」



2022年7月13日
UNDP・JICA特別フォーラム 人間の安全保障とアフリカの挑戦 –TICAD8に向けて



2022年7月4日
アフリカ新興テック ナイジェリアピッチ決勝戦 (外部サイト)



2022年6月22日
JICA総方貞子平和開発研究所ナレッジフォーラム (第12回) 「SDGsと質の高い成長 – 誰ひとり取り残さない、持続可能でレジリエントな社会に向けて –」



2022年6月22日
ウェビナー「ポスト・コロナ時代のアフリカ : 経済構造転換のための優先的政策課題の再設定」

JICA関連サイト②

■JICA広報誌（JICA Magazine）サイト <https://jicamagazine.jica.go.jp/>

2022年6月号

2022年8月、3年に1度の「TICAD8(第8回アフリカ開発会議)」が開催される。コロナ禍で一旦は停滞した経済・社会を、アフリカ全体で回復し前進させようというタイミング。支援される側から脱却し、自らの力で急速な発展を推し進めるアフリカの現在と、そこに、あらゆる分野においてさまざまなアプローチで協力する日本の取り組みを紹介していく。距離は遠くとも私たちの暮らしどつながるアフリカについて、あらためて考えるきっかけにしたい。

アフリカ
アフリカと歩む新しい時代

JICA関連サイト③

JICAサイドイベント公式サイト

Coming Soon

8/22(月) -8/26 (金) の①17:00-18:30②19:30-21:00で約25件のイベントを実施

2022/08/28 14:26

TICAD8 JICA Side Events



Towards a resilient, inclusive, and prosperous Africa

JICAは、発展途上国との信頼関係を特に重視し、途上国と共に課題の解決に取り組んでいます。

[詳細を見る](#)



最新のお知らせ | 8月27日開催の「アフリカの世界に果たすスポーツの役割」の情報を更新しました

お知らせ一覧を見る

イベント一覧 List of JICA Side Events

JICAが主催するサイドイベントを掲載しています。

2022.8.22 (Mon)

時間 (JST)	分野	イベント名	共催	開催形式	イベント詳細 / 参加登録
17:00-18:30	農業 (CARD)	アフリカ稟作振興のための共同体 (CARD) フェーズ2を通じた緑の革命のための稟作振興	アフリカの革命のため同盟 (AGRA) (調整中)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録
17:00-18:30	ディーセンターワーク	Inclusive and Quality Infrastructure Investment for Decent Job in Africa	国際労働機関 (ILO)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録
19:30-21:00	地域統合	地域統合の進化 - ポストコロナ時代のAICFTAと貿易自由化の推進-	世界銀行	オンライン形式	イベント詳細 参加登録
19:30-21:00	平和	アフリカにおける難民を含むする取り組みへの投資：成長と持続的な開拓へ向けたマルチステークホルダーアプローチ	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録
19:30-21:00	大学連携	日本・アフリカサインスイノベーションウィーク 日本アフリカ大学交流会議 (主催：科学技術振興機構 JST)	国際協力機構 (JICA)、筑波大学、日本・アフリカ大学連携ネットワーク (JAAN) 後援：外務省、文部科学省	オンライン形式	イベント詳細 参加登録

2022.8.23 (Tue)

時間 (JST)	分野	イベント名	共催	開催形式	イベント詳細 / 参加登録
17:00-18:30	気候変動	開発課題や支援ニーズを重視したアフリカの気候変動対策への取り組み	アフリカ開発銀行 (AfDB) エジプト、アメリカ国際開発庁 (USAID) (調整中)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録
17:00-18:30	経済構造転換	ポストコロナにおけるアフリカ経済強靭化のための新政策アジェンダ	ACET、アフリカ連合開発庁 (AUDA-NEPAD)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録

<https://13.113.34.171/index.html>

1/3

2022/08/28 14:26

TICAD8 JICA Side Events

時間 (JST)	分野	イベント名	共催	開催形式	イベント詳細 / 参加登録
19:30-21:00	若者・人材資源	アフリカの若者の未来を切り開き、持続可能な開発に向けて日アフリカ間の共創へ		オンライン形式	イベント詳細 参加登録
19:30-21:00	栄養	JICA・AUDA-NEPAD共催 アフリカの栄養改善に向けた国際ニシニアティFNAの取り組みと地盤地消滅の学校給食	アフリカ連合開発庁 (AUDA-NEPAD)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録
19:30-21:00	人間の安全保障	ポストコロナ時代のアフリカと人間の安全保障	Afrobarometer、国連開発計画 (UNDP)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録

2022.8.24 (Wed)

時間 (JST)	分野	イベント名	共催	開催形式	イベント詳細 / 参加登録
17:00-18:30	カイゼン・産業化	カイゼン導入とディーセント・ワーク創造によるアフリカ産業化の加速	アフリカ連合開発庁 (AUDA-NEPAD)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録
17:00-18:30	インフラ開発投資	アフリカにおけるインフラ開発投資の機会を探る	アフリカ開発銀行 (AfDB)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録
17:00-19:00	科学技術・イノベーション	日本・アフリカサインスイノベーションウィーク 持続可能な開発のための日アフリカ間におけるSI研究協力 一コールパートナーシップとインクルーシブラボセッション DAY1 (主催：科学技術振興機構 JST; Japan、南アフリカ国立研究財团 NRF; South Africa)	国際協力機構 (JICA)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録
19:30-21:00	回廊開発	回廊開発アプローチの実践～これまでの軌跡と今後の在り方～	アフリカ連合開発庁 (AUDA-NEPAD)、ドイツ国際協力機構 (GIZ)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録
19:30-21:00	農業 (SHEP)	革新的な農業普及とは～SHEPアプローチを通じて～	国際農業開発基金 (IFAD)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録
19:30-21:00	砂漠化	ケニア環境森林省 (調整中)、セネガル環境持続開発省、国際砂漠化対処条約 (UNCCD) 事務局 (調整中)	オンライン形式	イベント詳細 参加登録	



Towards a resilient, inclusive, and prosperous Africa

ご清聴ありがとうございました

Tokuda.Masato@jica.go.jp